

冬の
日の
小文
笈

中村俊定藏本
中村俊定解説

昭和三十四年二月十日 整版
昭和三十四年四月三十日 初刷発行

不 許
複 製

冬の日・笈の小文

定価二五〇円

原本收藏

中村俊定

製版者

中山知実

発行者

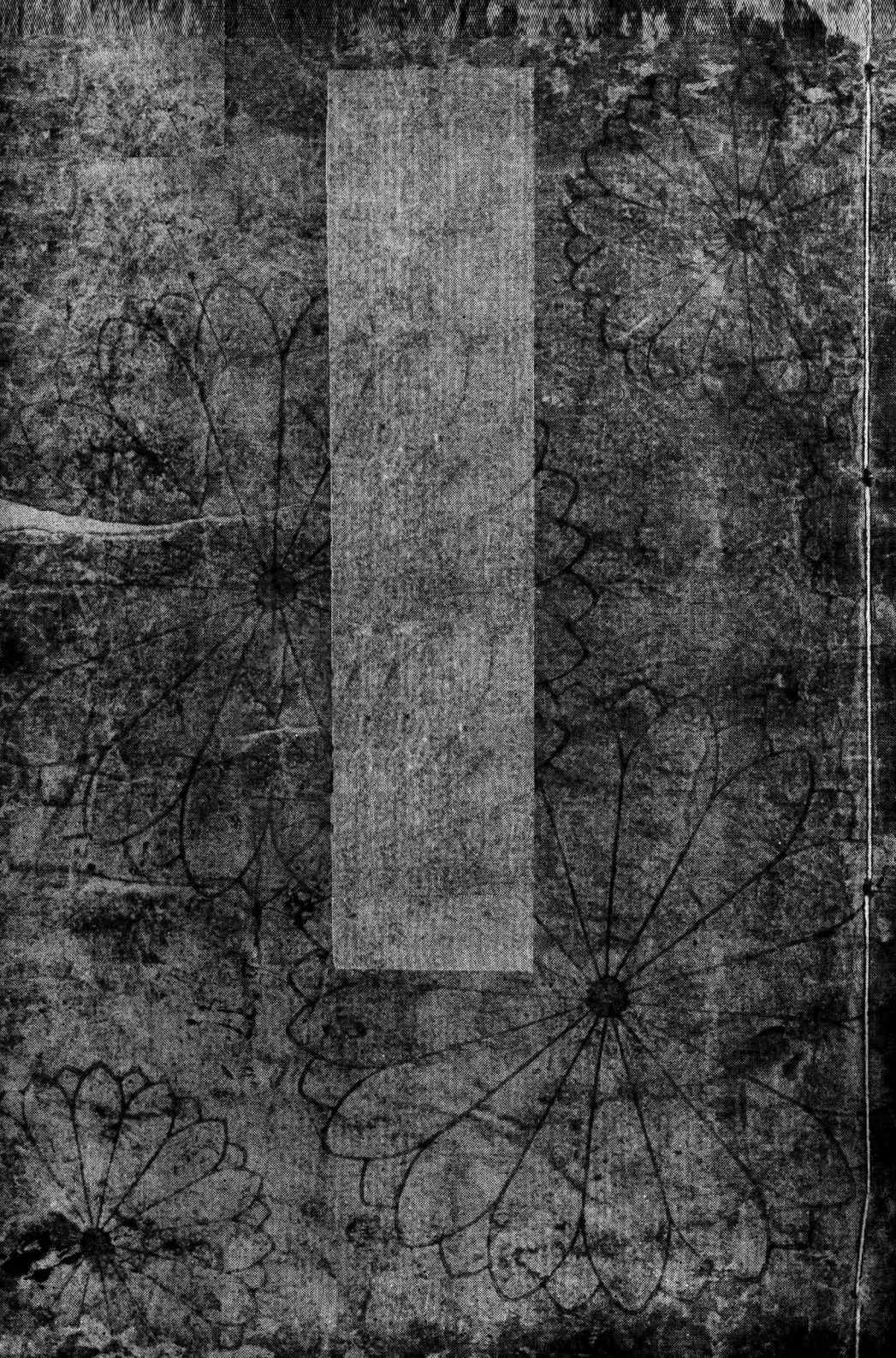
前田武

発行所 合名会社 武蔵野書院

東京都千代田区神田錦町三ノ十一

電話東京(29)四八五九番

振替口座 東京六七一四六番



笠をかき途のふくむるの衣衣い
と胸あけ農あゝにまをきり
徒はうたふと人あゝ何をに
おほえんやうむのゝ狂歌はまた
國よりしるしなるふ國なり

いふやうに

犯すことなし身を行ふことなし

芭蕉

あまもどろけいの茶花 野水

有明のさゆゑ酒をうけし 荷子

うゝられをもちふあのみ 重五

朝鮮のほろり 杜國

日さちやくに野々米を刈 正平

わの心もを誘ふにまじりてあはれみく 野水
 髪もやまよふ心志のふ身のうで 芭蕉
 けりわのつゝも乳を志あはれみ 雪又
 こそえぬうもふくすこくとなく 荷了
 新法カケホシのあつすましく火を燭く 芭蕉
 あるうもえりんくちもえり 虚家カライエ 杜國
 田中明子すんう御落るころ 荷了
 世務くそひり人いらんその 野水

昔よりを懐くふらむ月夜
 杜園
 ともわたりた町より春を
 二の尾くを懐くふらむ月夜
 村水
 襟をいそぐふらむ月夜
 空雲
 のりおみ簾遠顔おみふらむ
 月夜
 いそぐ懐くふらむ月夜
 声
 ぬす人の記念の松は吹おみ
 芭蕉
 出づり家紙は名を付し水
 杜園

望ぬ夢て無程あそめも心何處寄る
冬より春までいふ唐草燈籠
さうとて碎ぐとて人の骨う何處國
烏賊はさるもの國はさるもの
あふれこれ謎うとてさう郭公燈籠
秋水一斗さうとてさう夜とさう
日赤の赤白う坊う月をみえてさう
中うとて不槿なとてさう琵琶すけう

うしのねとふくぬるれ夕ぐれくさ
 箕一鯨の奥をいふく 木
 わいのつとあなうは星孕むく
 ちふとにいふれふくうくいふく
 綾いふく居陽くさうの花濂て
 廊下と藤のうけつとや

おのゝも壮年

いさゝかゝるゝもを振に次

ふのすはたゝゝと清きてうゝ

埜水

雲くもくこりゝゝ蕉乃 食 杜國

野柔ゆてきゝゝの蝶のおおが 芭蕉

うゝゝあゝ秋とくゝまゝいゝゝわ 荷兮

麻呂の月神く鞆鼓とゝゝゝ人 重五

枕とゝゝゝゝゝ負徳の 富 正平

るうあふ深き水の回標おろして 杜國
 奥のこけりより我只なまゝにあく 禁水
 床もあふく流すこゝろなる男 荷
 縁さふきけれ恨このころ ぐさ
 口かゝと癪をとりての地あらふ 咄次
 明日をうゑに筆にふびきあふ 予
 か三ちくゝ盃くらあふく 芭蕉
 月夢をまのれ牡丹 ぬす人 杜國

種あふのがらぶに習ふく 重
 ちりくもみ比嘉切町 荷
 物もいそぎや娘のいのちく 杜國
 まふ路いそぎもいそぎ 山本 晴
 櫛くくに餌をいそぎやあつちのいそぎ
 うらふもいそぎやあつちのいそぎ 芭蕉
 海あつちのいそぎやあつちのいそぎ 野矢
 ニ線あつちのいそぎやあつちのいそぎ 人 志

有すゝゝ天徳ておやう基とてさき
 祢とくくのさくも 七十 杜國
 奉りあひあひまうりまうりあひ
 いのの傘^かれ下^さあう
 蓮^はのさうのみさふ夕^ゆも
 まごにまつゝ 落^{タス}候^{アサ}もとも
 月^{つき}もあうる唐^{から}物の髪^{かみ}も
 恋^こもあうる臨^{りん}済^{さい}も
 恋^こもあうる

秋聲もろ虚々落々しく、
 暮の實つてふ、
 夜より夜をひく、
 花もわを典侍の肩の内、
 こゝれを鸚鵡尾羽の、
 一、